

令和5年度第2回愛媛県がん相談員研修会 「診断期にある患者の意思決定支援」活動実施報告書

記載者:大西明子

I. 企画概要

企画名

令和5年度第2回愛媛県がん相談員研修会「診断期にある患者の意思決定支援」

主催

愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会 がん相談員研修ワーキング

開催日時

2024年3月16日(土)13:00~17:00

開催方法

集合研修 (会場)四国がんセンター 地域連携研修センター3階 研修室1
愛媛県松山市南梅本町甲160番地 (TEL) 089-999-1111

目的・目標

- (目的)・がん相談支援センターの相談員が診断期から患者の意思決定支援ができるようになる
- (目標)・診断期の患者・家族の心理を学び、意思決定に必要な支援を考えることができる
 - ・より良い相談支援を行うために、日ごろの相談対応を振り返り、気づきを得ることができる
 - ・相談員が日頃に見えるセルフケアを学ぶ

運営スタッフ

講師	講義①診断期の意思決定支援:愛媛県立中央病院:武田 千津先生
	講義②自分を大切にするリラクゼーション法の実践と体験:人間環境大学総合心理学部 武田知也先生
司会	塩見美幸(愛媛大学医学部附属病院)
ファシリテーター	関木裕美、大西明子 (四国がんセンター) 濱田由香 (愛媛県立中央病院) 佐伯祐希子(松山赤十字病院)
その他	福島美幸、篠原瞳(四国がんセンター) 和田美恵子(住友別子病院) 松岡誠子(済生会今治病院) 川中真紀(市立宇和島病院)
事務局	安宅麻美弥(四国がんセンター)

受講対象者 (受講定員 20名、受講者 12名、欠席 0名)

- ・愛媛県内を中心に全国の拠点病院・がん診療連携推進病院のがん相談支援センター相談員
- ・他県からの参加も可
- ・がん相談に従事する相談員(医師、看護師、MSW、心理士等)

受講条件

がん相談員が行う診断期の意思決定支援で日頃困っていることを紙に書いて当日持参する

内容

- 10:00～11:30(90) 運営委員、ファシリテーター、講師打ち合わせ
11:30～12:30(60) 昼休憩
12:30～12:50 参加者受付
13:00～13:10(10) オリエンテーション
開会挨拶 がん相談支援専門部会 副部長(四国がんセンター 長谷部昌先生)
13:10～13:20(10) 導入・作業説明
13:20～13:40(20) グループワーク①
アイスブレイク 自己紹介、私のお花見自慢
診断期の患者・家族の支援を振り返ろう(シェア)
13:40～13:45(5) 事例提示
13:45～14:35(50) グループワーク② 事例検討:診断期の意思決定支援
14:35～15:05(30) 全体共有
15:05～15:20(15) 休憩
15:20～15:55(35) 講義①診断機の意思決定支援
15:55～16:15(20) グループワーク③ 事例検討の振り返りと事故の課題の明確化
16:15～16:50(35) 講義②ストレスマネジメント
16:50～17:00(10) まとめ、閉会挨拶、事務連絡
17:00～17:15(15) 片付け
17:15～18:00(45) 運営委員、ファシリテーター、講師振り返り会

Ⅲ群登録

国立がん研究センター実施の「認定がん専門相談員制度」におけるⅢ群研修の単位認定申請を行い、承認された。

Ⅱ. ワーキングの打ち合わせ・振り返り会

1. 打ち合わせ会(10:00～11:30)

- ・講義内容、研修進行等の予定に変更なし。
- ・講義①②の資料は、講義後配布ではなく、研修開始時に全て配布しておく。
- ・グループワークの進行の確認。グループワーク①は発表なし。
- ・グループワーク②で役割決めをして開始。サブファシリテーターがタイムキーパーをする。運営側からも残り時間を管理して5分前に全体にアナウンスする。
- ・グループワークでの意見は付箋紙を使用。グループ発表は、模造紙に太マジックで書いたものを掲示しながらする。
- ・体、心、暮らしの3視点で意見を出していき、相談者の真のニーズを整理しながら、支援計画へとつなげていくように進行していく。
- ・診断期ということで、これから治療に向かう相談者が、主治医からどのように説明をきいているのかも大切な視点なので意識していく。
- ・看護師、MSW、心理士など職種による異なる視点の意見を引き出せるようにする。
- ・グループワーク②後、全グループ発表。グループワーク③は発表なし。

2. 振り返り会(17:10~18:00)

1) 全体の印象、講義②について

- ・参加数が少なかったのは、3月初めの土曜日ということで、卒業式時期と重なったからではないか。
- ・講義前に「日々のリラックス方法の確認」で、受講者のスマホから資料スライド4に掲載された二次元コードをスキャンして、回答を提示する予定だったが、講師所持のパソコン(MAC)とインターネット接続がうまくいかず中止となった。
- ・セルフリラクゼーション技法として日常的に取り入れやすい呼吸法を実践し、短時間ではあったが、リラクゼーションを実施する時間と場があることで実践することができ、リラックス効果を感じる事ができた。

2) グループワークについて(ファシリテーターから)

- ・緩和期から介入するケースばかりで診断期のがん相談は対応したことがない参加者が多かった。
- ・どのグループも意欲的に意見交換ができていた。現在、医療機関に所属していない参加者も積極的に発言できていた。
- ・診断期にある患者さんの動揺、不安な気持ちを受け止め、状況を整理しながら、最良の選択ができるように関わりたい、対話を重ねながら情報整理し、前向きに対応できるようになりたいなどの感想があった。
- ・講義に関する感想(傾聴することの重要性、患者に話をするタイミング、今日の面談のゴール設定等)が多く聞かれた。

3) 講義①について

- ・普段あまり接することがない診断期にある患者さんの状況がよく理解できた。
- ・特に混乱期にある患者が、真のニーズを相談員に明確に伝えることができるのは極わずかであり、まず傾聴し状況や思いを整理することが大事である。目の前に来てくれた相談者が、その後も相談しようと思えるような支援を心掛け、更に継続してサポートしていけることを伝えることも忘れてはならない。「診断期」という早期のタイミングから今後長くなるかもしれない療養生活の不安や辛さをサポートするチーム医療や相談支援センターの関わり的重要性を学ぶ良い機会であった。
- ・時間配分、流れなどもよかった。

4) 司会進行・全体を通して

- ・グループワーク→講義の流れがよかった。診断期にある患者さんについて、より効果的に理解を深めることができたのではないかな。
- ・次回以降、がん相談10の原則やコアバリューなども講義に盛り込む。

5) 会場設営等、その他

- ・前回、隣のグループの声が大きく、グループワークの声が聞き取りにくかったという問題点を踏まえて、各グループの配置を十分ゆとりを持たせた結果、特に問題なく進行することができた。

Ⅲ. 研修実施結果

1. 受講者背景

受講者計 12名 内訳

施設別 : がん診療連携拠点病院 9名、がん診療連携推進病院 2名、その他 1名

県別 : 愛媛県 12名、愛媛県外 0名

職種別 : 看護師 4名、MSW 7名、心理士 1名

2. アンケート集計結果より抜粋

回答数 11件(参加者12名中)

1) 参加理由

「職務上必要と感じた」、「自己研鑽」、「テーマが面白そうだった」という意見が多く、自発的に学ぶ姿勢がある。

2) 研修目的の理解・満足度

- ・「大変満足した」82%、「満足した」18%と研修会全体の満足度は高く高評価だった。
- ・「診断期の患者の意思決定支援について、日ごろの対応を振り返り、気づきを得ることができたか」については、参加者の91%が「とてもそう思う」と回答している。グループワークで診断期の患者・家族の支援について振り返り、学んだことを言語化することで、自身の対応に気づきが得られた。
- ・「本研修会の内容は、臨床の役に立つと思うか」については、「とてもそう思う」68%、「そう思う」36%だった。参加者の立場として、診断期に関わることが少ない相談員が複数参加していたことが要因の一つと考えられる。

3) 受講者からの意見

- ・「この時期の意思決定がどれだけ重要であるかの重みを学んだ」、「診断期の患者・家族は混乱の状況にある。理解し、受け止めていく過程に寄り添い、医師からの説明や正確な情報ツールで情報提供ができるようにしたい」といった意見があった。研修を通して、診断期の患者の心理を理解し、意思決定支援についてイメージできている。
- ・進行に関して「ワークがしやすく迷わず話し合いができた」、「丁寧に指導していただき、グループメンバーと共にまとめることができた」、「思いを代弁・補足していただき、自分の思いを話すことができた」との意見があり、ファシリテーターが進行を務めたことで、グループディスカッションが促進されたと考える。
- ・「ストレスを抱えやすい職種でもあるため、ストレスマネジメントのセルフケアを学べ、企画担当のやさしさを感じた」、「より良い相談対応ができるように、リラクゼーションを行うことも大事だと実感した」と意見があり、ストレスマネジメントを取り入れた目的を理解し、体験に参加できている。
- ・グループワークのメンバー構成に関する意見があった。参加者が少なく調整の難しさがあったが、職種や所属等の配慮が必要である。

IV. 今後の展望

- ・集合研修を再開して 2 回目の開催となった。今回も他施設職員との意見交換や、交流の場として集合研修の良さを実感した意見があがった。今後もグループワークを含めた集合研修の開催を継続していく必要がある。
- ・相談員が介入することが少ない「診断期」がテーマだったためか参加者が少なかったが、がん専門相談員として取り組む必要のあるテーマについては、今後も率先して企画していく。
- ・ただし参加者を増やす取り組みも同時に検討する必要がある、参加しやすい時期や曜日、時間帯など再考する。

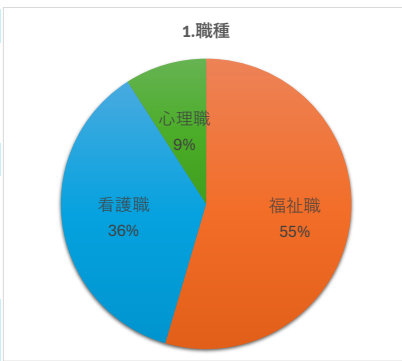
令和5年度第2回愛媛県がん相談員研修会事後アンケート結果

開催日：2024年3月16日（土）13：00～17：00

参加者12名 回答11名 回答率91.6%

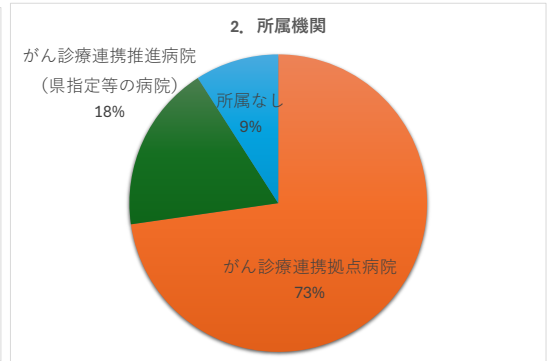
1. 職種

福祉職	6
看護職	4
心理職	1



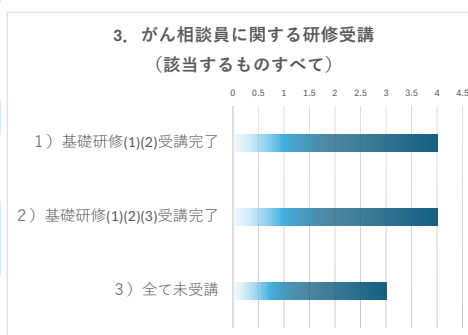
2. 所属機関

がん診療連携拠点病院	8
がん診療連携推進病院（県指定等の病院）	2
所属なし	1



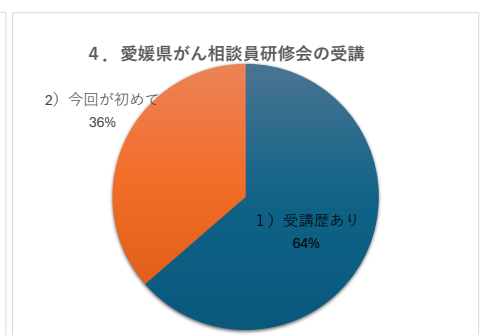
3. がん相談員に関する研修受講（該当するものすべて）

1) 基礎研修(1)(2)受講完了	4
2) 基礎研修(1)(2)(3)受講完了	4
3) 全て未受講	3



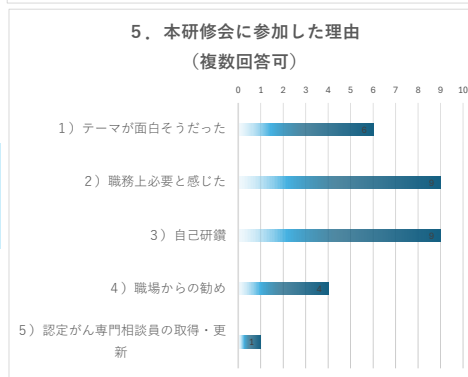
4. 愛媛県がん相談員研修会の受講

1) 受講歴あり	7
2) 今回が初めて	4



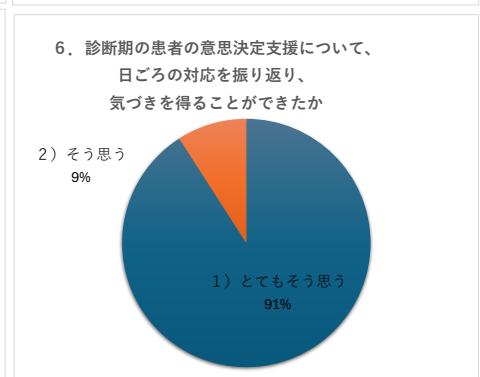
5. 本研修会に参加した理由（複数回答可）

1) テーマが面白そうだった	6
2) 職務上必要と感じた	9
3) 自己研鑽	9
4) 職場からの勧め	4
5) 認定がん専門相談員の取得・更新	1



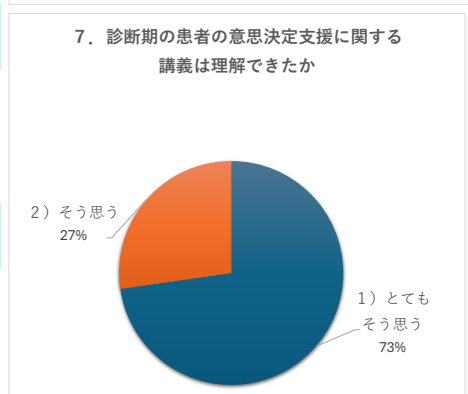
6. 診断期の患者の意思決定支援について、日ごろの対応を振り返り、気づきを得ることができたか

1) とてもそう思う	10
2) そう思う	1
3) あまりそう思わない	0
4) 全くそう思わない	0



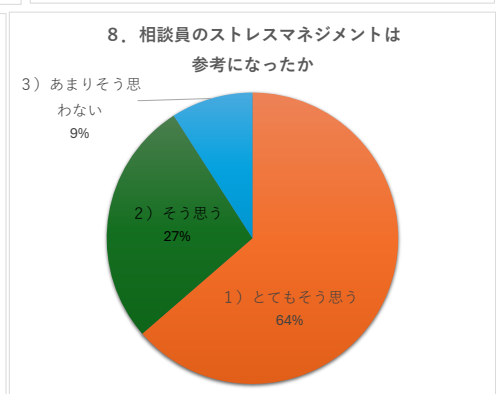
7. 診断期の患者の意思決定支援に関する講義は理解できたか

1) とてもそう思う	8
2) そう思う	3
3) あまりそう思わない	0
4) 全くそう思わない	0



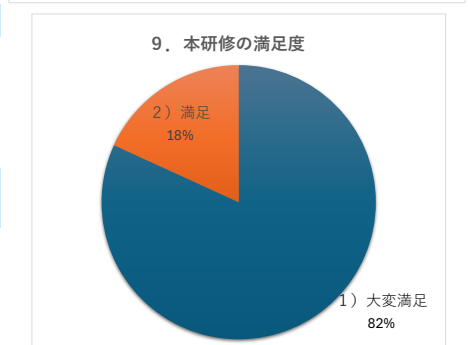
8. 相談員のストレスマネジメントは参考になったか

1) とてもそう思う	7
2) そう思う	3
3) あまりそう思わない	1
4) 全くそう思わない	0



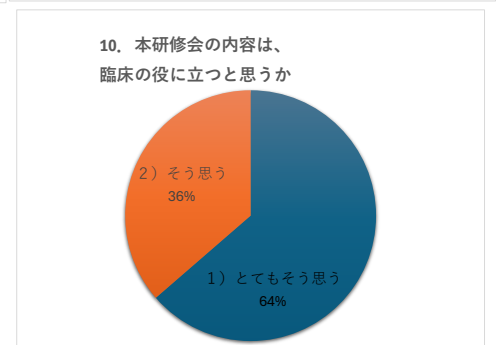
9. 本研修の満足度

1) 大変満足	9
2) 満足	2
3) あまり満足でない	0
4) 全く満足でない	0



10. 本研修会の内容は、臨床の役に立つと思うか

1) とてもそう思う	7
2) そう思う	4
3) あまりそう思わない	0
4) 全くそう思わない	0



1 1. 本研修に対するご意見や感想を教えてください。

* 日々の業務にいかせる内容で勉強になった。

* 診断期は患者ががんと共に生きていくスタート地点、と理解していたつもりだったが、改めて文字でみて講義を受け、この時期の意思決定がどれだけ重要であるかの重みを学んだ。その人が自分らしく選択し時間を過ごしていけるよう、話を聴き対話し、意思決定プロセスを支援できる相談員になれるよう研鑽していきたいと思います。

* 研修を通して自分の相談対応について振り返ることができた。診断期における相談員の役割の重要性が理解でき、今回の学びを生かしていきたいと思う。

* MSWとして勤務していた頃、診断期の意思決定支援の難しさを感じていました。診断期の支援について、ディスカッションし、さまざまな意見や考え方を聞くことができ、とても有意義な時間でした。対人支援は、大変なこともたくさんあるけれど、ソーシャルワーカー（相談支援員）って、やっぱり素晴らしい職種だとあらためて思いました。またストレスを抱えやすい職種でもあるため、ストレスマネジメントのセルフケアも学ぶことができ、企画担当された方々の優しさも感じました。この度の私の研修参加において、ご配慮いただき誠にありがとうございました。

* 診断期のがん相談は経験がなく身構えていましたが、ファシリテーターの方々丁寧な指導をいただき、グループメンバーと共にまとめることができました。他のグループの意見も、とても参考になりました。武田さんの講義、とても内容が濃くがん相談支援を行う中でとても重要なことばかりでした。今後の業務に活かしていきたいです。

ありがとうございました。

* 診断期は、患者・家族は混乱している状況にあること。理解の様子、受け止めていく過程に寄り添い情報の整理を手伝ったり、不足部分を医師からの説明や、正確な情報ツールを使って情報提供できる。本当に必要としていることは何か、患者・家族と共有できる面接・面談を心掛けたいです。

* がんに罹患する患者が増える中で診断期からの患者の意思決定支援が、こころ、からだ、くらしの観点から課題を見出し必要な支援を考えることができました。より良い相談対応ができるように、リラクゼーションを行う事も大切だと実感した。いずれも今後の業務に活かしていきたい。

* 日頃がん相談に関わっている他院の相談員さんのお話が聴ける貴重な機会でした。ありがとうございました。

* グループワークのメンバー構成を職種や勤務施設など全体的に考慮しながら決めて頂きたい

1 2. 今後の愛媛県がん相談員研修会で取り上げてほしいテーマや運営に関するご希望があれば教えてください。

* アセスメント

* がん相談員の困りごとなどの情報共有、情報交換の場を設けていただけるといいなと思います。

* ファシリの方々が思いを代弁・補足して下さり、自分の思いは話す事ができたとし、グループワークも、スムーズに楽しくできたと思います。ありがとうございました。

* 主治医と信頼関係が保てなくて変更希望する相談対応について